

史跡名勝天然記念物等の老朽化対策【文部科学省】

施策概要

史跡名勝天然記念物を後世に継承するため、適切な整備周期での整備により、経年劣化を補強し、適切な保存整備を行う事業に対する補助等を実施

効果

定期的な保存整備により文化財としての価値を維持でき、災害が発生した際にも石垣等の被害の防止が可能

全国的な対策と効果

全国約90箇所の史跡等において、排水対策工事や崖面補強対策を実施



主な対策箇所

- ・津山城跡(岡山県津山市)
- ・丸亀城跡(香川県丸亀市)
- ・原城跡(長崎県南島原市)
- ・日野江城跡(長崎県南島原市)
- ・都於郡城跡(宮崎県西部市)
- ・石清尾山古墳群(香川県高松市)
- ・大村横穴群(熊本県入吉市)

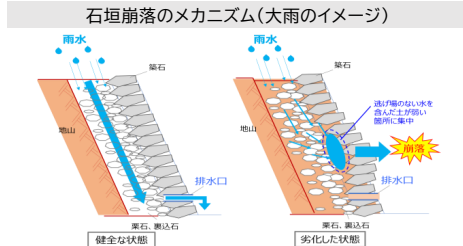
【対策しなかった場合の他施設被害事例】



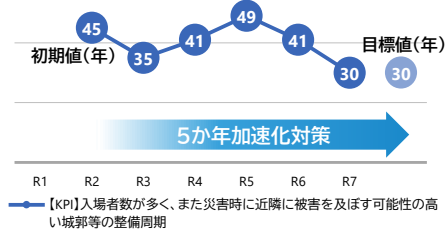
予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
16億円	0.7億円	3億円
R6	R7	累計
11億円	-	31億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている



目標達成の見通し



効果発揮事例

老朽化した石垣を整備し、史跡の耐震性や排水性能を回復する



岡山県津山市



岡山県津山市



歴史活き活き！
史跡等総合活用整備事業

津山城跡での対策状況



石垣整備：一旦解体し栗石や裏込石を詰め直す作業

事業費

2.4億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)0.4億円)

事業の背景(地域の課題)

丘陵地に所在する石垣等の史跡は、水害や地震による被害を受けやすく、崩落した土砂が民地に流入する被害も発生しています。このため、史跡名勝天然記念物については適切な周期で老朽化対策整備を行う必要がありました。津山城跡においても、石垣の孕み出しが生じる等の老朽化が確認されており、平成30年7月豪雨にて法面が崩落するなど、対策が必要でした。

事業の内容

老朽化が確認された石垣について、一旦解体し、石垣を積み直すとともに、栗石や裏込石を詰め直し、適切な耐震性や排水性能を回復する整備を行いました。
事業面積：251.6㎡

効果

本事業は令和5年3月に完了したのですが、令和4年の台風14号上陸時には概ね整備できていたため、城内の他の箇所では被害(復元建物である備中櫓の漆喰壁剥離等)が発生した一方で、整備を実施した「二の丸東側石垣」では被害が生じませんでした。
また、令和5年の台風7号においては、隣町に所在する文化財において遊歩道が破損する被害が発生しましたが、津山城跡の整備済の石垣に被害は生じませんでした。

(1) 人命・財産の被害最小化

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持

2

インフラの老朽化対策

(1)

3 施策のデジタル化

国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進

(2)

災害関連情報の高度化